

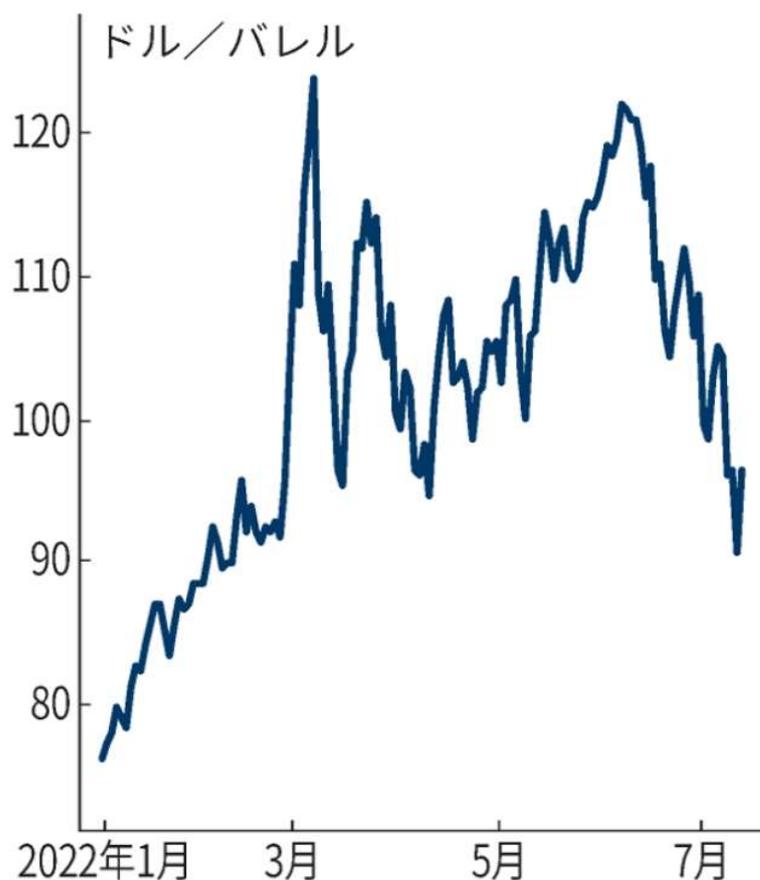
原油急落、一時90ドル ウクライナ侵攻直後の水準

原油相場が急落した。指標のWTI（ウエスト・テキサス・インターミディエート）原油先物は14日、一時前日比6%安い1バレル90.56ドルまで下落。ロシアによるウクライナ侵攻開始直後の2月25日以来4カ月半ぶり低水準を付けた。節目の90ドルを割り込んだ場合、ロシアによるウクライナ侵攻開始以前の水準に戻ることになる。

米物価指標が予想を上回るなどのインフレ圧力の高まりで、米連邦準備理事会（FRB）をはじめとする各国の中央銀行が利上げを一段と加速するとの思惑が強まった。世界景気が後退に向かい原油需要が減るとの見方から、売りが優勢となっている。侵攻後に急騰した銅やニッケルなどの非鉄金属も軒並み大幅に下げた。

利上げ観測に伴いドル高が進み、ドル建てで取引される国際商品全般の割高感が意識されていることも商品相場の押し下げ圧力となっている。原油は1日の価格変動が激しく、投資家が運用リスクを避ける目的で原油の持ち高を手じまう動きも出ている。

原油は侵攻前水準に接近



廃食油燃料の路線バス 西武バス、所沢などで運行

西武ホールディングス（HD）傘下の西武バス（埼玉県所沢市）は13日、食品の調理などで生じる廃食油などを用いた燃料で走る路線バスを報道陣に公開した。14日から所沢市などで運行を始める。廃食油など再生可能資源由来の燃料だけを使う旅客バスの運行は国内では初めてという。

同社などによると、今回使用するのはフィンランドの再生燃料大手、ネステ製の再生可能資源由来の燃料「リニューアブルディーゼル（RD）」。伊藤忠商事と同社子会社である伊藤忠エネクス（東京・千代田）と連携して導入を決めた。RDは廃食油や動物油などを原料とする燃料で、温暖化ガスの排出量を軽油など従来の石油由来燃料と比べ9割程度削減できる。

RDを導入する路線バスは1台で、14日以降は西武鉄道所沢駅を出発する2つの路線を走行する。西武HDの担当者は「西武バスはこれまでもバイオディーゼル燃料や燃料電池バスなどを導入しており、温暖化ガス削減につながる取り組みを進めている。今後はバス事業における再生可能資源由来の燃料の使用比率をもっと高めたい」と話している。

コスモHDで不適切検査 子会社3社、ガソリンなど18品目

コスモエネルギーホールディングス（HD）は13日、子会社のコスモ石油など3社がガソリンや重油など18品目の品質検査で不正行為をしていたと発表した。判明している限りでは1995年から不正があった。検査回数が不十分だったり、検査マニュアルが法令に適合していなかったりした。

コスモHDは出荷済みの製品の品質に影響はないとして、製品の販売を続ける。

主に石油製品をつくるコスモ石油、石油化学製品をつくるコスモ松山石油（松山市）、潤滑油をつくるコスモ石油ルブリカンツ（東京・港）の製油所や石油化学製品の工場で不正行為があった。

ガソリンや重油といった製品の検査で、揮発油等の品質の確保等に関する法律（品確法）などに定められた手順に沿った検査が行われていなかった。品質検査のマニュアルが日本産業規格（JIS）に沿っていなかったケースもあるという。社内監査でもマニュアルと手順の照合にとどまり、マニュアル自体の確認が不十分だったと説明する。

5月に出光興産の子会社で品質検査での不正行為が判明したことから、コスモHDでも調査をしたところ今回の不正が明らかになった。

検査不正の発覚後、社内体制を見直し、6月13日以降は全ての製品試験を正しく実施しているとしている。第三者委員会などは立ち上げず、教育の徹底や監査の強化で再発防止に努めるという。

新任者インタビュー 東洋インキSCHD

趣味はゴルフ。写真を撮られるのは苦手とシャイな一面を見せる反面、自身のウィチャットのプロフィールにはお子さんとお孫さんの写真を設定するなど子煩悩な一面を持つ。東洋インキグループは中国に約10の現地法人を置き、インキ・接着剤・着色剤・顔料など幅広い分野にわたり展開しているグローバルメーカーだ。そのなかで上海東洋油墨製造（STIM）は華東エリアの製造・販売活動の中核を担う。今年就任した村上正理事長兼総経理は「自動車为例にすると内装への着色剤・接着剤用途はもちろ

上海東洋油墨製造 董事長兼総経理
(東洋インキSCホールディングス)



村上正氏

ん、培ってきた顔料分散技術をベースに車載ディスプレイ、LiB開発。すべての製品が主戦場といえる」と60歳を過ぎても、言葉とまなざしから力強さを感じる。入社以来、東洋インキ

新任者インタビュー

すべての領域が主戦場

一筋で歩んできた。入社からマスターパッチ関連を中心に40代まで製造、技術、営業部門などを一通り経験。韓国での駐在経験を経て、2010年に初めて上海赴任となった。同年はグループ全体が再編を進めていた頃合い。上海拠点も上海東洋塑料が、STIMに合併されるなかで変革と融合の旗手を担った。

2回目の上海駐在となる今回はロックダウン中の赴任となった。10年前の上海とは風景、電子マネー決済の普及など当時とは大きく様変わりし、「まだ戸惑っている部分も正直多い」と苦笑いする。

今回のミッションは上海をはじめとした華東エリアの開拓・販売増を中軸に据える。並行して後任の育成、女性活用もテーマに定めた。将来的には現地化策を進め、中国人総経理や女性董事を増やしていきたいと意気込む。

海外駐在は「グローバルスタンダード」を身につけることが肝要と村上氏は語る。日本式を押しつけるのではなく、各国の状況に最も適した体制を敷き、社内の日本人駐在員にもそれを伝え導くことも役割と、やるべきことは山積みだ。

製品値上げ

製品値上げ

合繊系など7

月出荷分から

東レ

東レは、7月出荷分から合繊系などを値上げする。1品ご当たりの改定幅は衣料用・産業用ナイロン6長繊維・短繊維、ナイロンBCF系が50円、衣料用・産業用ナイロン66長繊維・短繊維が80円、衣料用・産業用ポリエステル長繊維、ポリエステル短繊維、ポリエステル長繊維不織布が30円、アクリル短繊維が20円。粗原料の価格は世界的な景気回復にともなう需要増加、原油価格の高止まり、急激な円安進行の影響で、過去3カ月で10〜30%程度上昇。副資材やエネルギー、輸送などの費用も上昇している。これらの増加コストは自助努力で吸収できる範囲を超えており、昨年12月と今年3月に続いて価格を改定する。

ソルビン酸類を9 月分から20%以上 タイシヨーテクノス

タイシヨーテクノス

タイシヨーテクノスは、9月納入分からソルビン酸類を現行比20%以上値上げする。ソルビン酸、ソルビン酸カリウムの主な供給元は欧州と中国。欧州ではエネルギーコストの上昇や物流の混乱を背景に価格上昇が続き、中国では環境規制・エネルギー政策にともなう工場稼働制限もあり供給はタイト感が継続している。一方、世界需要は堅調に拡大しており、需給バランスの改善は当面見込めない。同社は中国からソルビン酸類を輸入し、国内で検品・小分けして自社ブランド製品として販売している。原材料や物流のコスト、人件費の増加を受け、仕入れ価格が上昇している。急激に円安が進行したこともあり、安定供給を維持するには価格を改定せざるを得ないと判断した。

産業ガスを8 月出荷分から

大陽日酸

大陽日酸は、8月出荷分から産業ガスを値上げする。対象製品は液化ガスローリー製品（酸素、窒素、アルゴン）、各種シリナー製品（酸素、窒素、アルゴン、混合ガス、水素ガス、ヘリウムガス関連製品）。改定幅は、ヘリウムガス関連製品以外は現行比平均15%程度（ヘリウムガス関連製品は純度・容器仕様などの製品規格ごとに案内する）。2月出荷分から価格改定を進めてきたが、その後も電力料金や各種原材料費は上昇し続けている。また、ヘリウムガスは世界的な需給ひっ迫や海上輸送費の高騰などによってコストが著しく上昇している。これらの増加コストは自助努力で吸収できる範囲を超えているため、再度価格を改定する。